

目 次

警防編

火災

・火災の概要	1
・火災件数の推移	1
・火災発生状況前年との比較	2
・月別火災発生状況	3
・出火原因	4
・初期消火状況	4
・原因別出火件数及び損害額	5

救急

・救急体制	6
・救急医療体制	6
・救急の概要	7
・救急出動状況	8
・救急出動状況前年との比較	9
・月別救急出動件数	1 0
・時間別救急出動件数	1 1
・急病にかかる疾病分類別搬送人員	1 1
・現場到着所要時間別出動件数	1 2
・病院収容所要時間別搬送人員状況	1 2
・応急処置等の実施状況	1 3
・救急講習会実施状況	1 4

救助

・救助体制	1 5
・救助の概要	1 5
・出動件数等の推移	1 5
・救助出動状況前年との比較	1 6
・月別救助出動件数	1 6
・救助種別及び傷病程度	1 7
・発生場所別出動件数	1 7

管制

- ・ 消防通信系統図 1 8
- ・ 指令センター 1 9
- ・ 指令電送装置・消防職員／消防団指令システム 1 9
- ・ 兵庫県災害対応総合情報ネットワークシステム 1 9
- ・ 兵庫衛星通信ネットワークシステム 1 9
- ・ 兵庫県広域災害・救急医療情報システム 1 9
- ・ Net 1 1 9 緊急通報システム 1 9
- ・ 緊急通報システム 1 9
- ・ 聴覚障がい者FAX 1 9
- ・ 非常通報電話 1 9
- ・ 緊急情報ネットワークシステム 1 9

通信・気象

- ・ 1 1 9 番受付件数 2 0
- ・ 気象状況 2 1

施設・装備

- ・ 消防水利の現況 2 2
- ・ 消防車両一覧 2 2
- ・ 主な消防機械器具の状況 2 3

水防

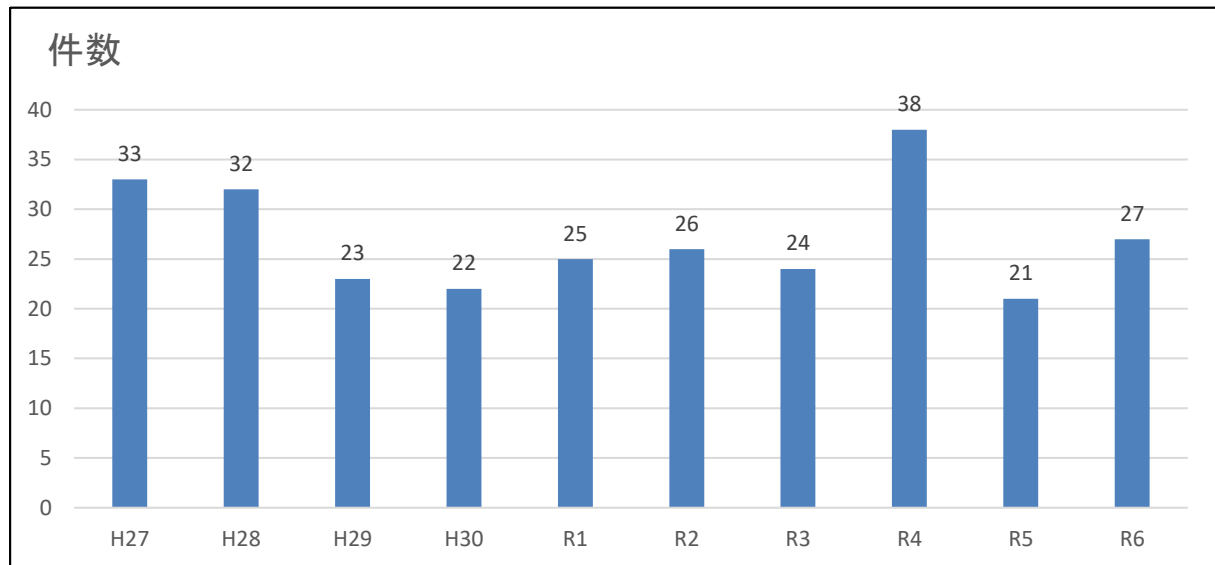
- ・ 事前調査 2 4
- ・ 活動 2 4

火 災

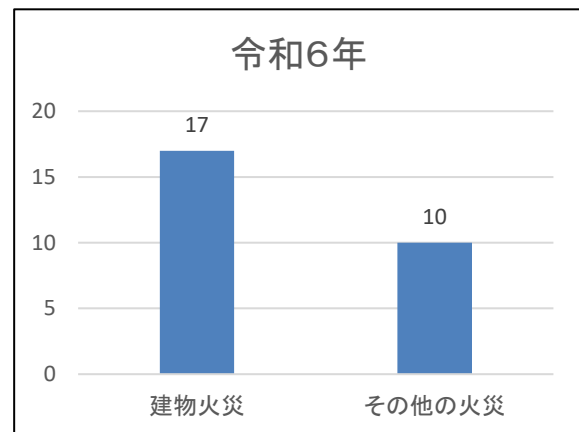
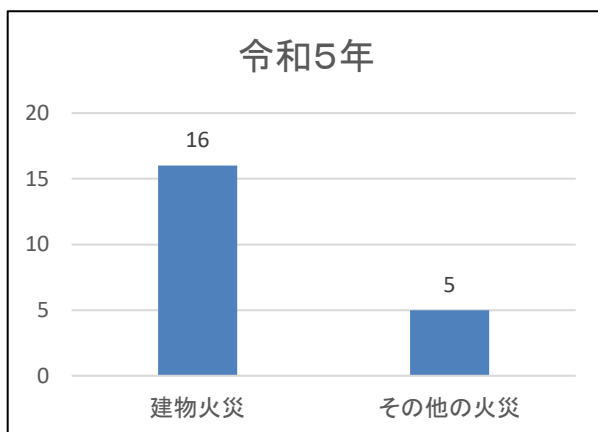
火災の概要

令和6年の火災件数は27件で、前年に比べ6件の増加となっています。
火災損害額は5,142千円で、前年に比べ12,227千円減少となっています。
死傷者については、死者1人（前年同数）、負傷者2人（前年比3人減）となっています。

火災件数の推移



火災種別でみると、建物火災が17件（前年比1件増）と最も多く全体の63%を占め、次いでその他の火災が10件（前年比5件増）で37%となっています。



火災発生状況前年との比較

年 別			令和6年	令和5年	増 減
火災件数	建物火災		17	16	1
	林野火災				
	車両火災				
	船舶火災				
	航空機火災				
	その他の火災		10	5	5
	合 計		27	21	6
損害額（千円）	建物		5,043	17,354	△ 12,311
	林野				
	車両				
	船舶				
	航空機				
	その他の		99	15	84
	合 計		5,142	17,369	△ 12,227
焼損面積	建物	床面積（㎡）	273	252	21
		表面積（㎡）	40	24	16
	林野（a）				
焼損棟数	全焼		3	4	△ 1
	半焼		1		1
	部分焼		4	5	△ 1
	ぼや		13	10	3
	合 計		21	19	2
り 災 世 帯 数			11	8	3
り 災 人 員			26	19	7
死 者			1	1	0
負 傷 者			2	5	△ 3

月別火災発生状況

(令和6年)

月 別		合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
火災 件数	建 物 火 災	17		4	2	1	1		2	3		2	1	1
	林 野 火 災													
	車 両 火 災													
	船 舶 火 災													
	航 空 機 火 災													
	その他の火災	10		1	2	1			1	3	1			1
	合 計	27		5	4	2	1		3	6	1	2	1	2
損 害 額 (千円)	建 物	5,043		2,828	1,081	35	10		119	896		18	53	3
	林 野													
	車 両													
	船 舶													
	航 空 機													
	そ の 他	99		30					25	5				39
	合 計	5,142		2,858	1,081	35	10		144	901		18	53	42
焼 損 面 積	建 物	床面積	273	81	171	13				8				
	物	表面積	40	16			1			23				
	林 野 (a)													
焼 損 棟 数	全 焼	3		1	1					1				
	半 焼	1				1								
	部 分 焼	4		3						1				
	ぼ や	13		2	1		1		2	3		2	1	1
	合 計	21		6	2	1	1		2	5		2	1	1
り災世帯数		11		6	2		1			1		1		
り災人員		26		12	4		4			3		3		
死 者		1		1										
負 傷 者		2		1	1									

出火原因

(令和6年)

出 火 原 因	件 数
た ば こ	3
こ ん ろ	3
焼 却 炉	1
ス ト ー ブ	3
ボ イ ラ ー	1
電 気 機 器	2
電 気 装 置	1
火 入 れ	1
放 火	5
放 火 の 疑 い	1
そ の 他	6
合 計	27

初期消火状況

(令和6年)

区分 \ 火災種別	建 物	林 野	車 両	船 舶	航空機	その他	合計
初 期 消 火 実 施 (初 期 消 火 で 鎮 火)	13 (11)					7 (5)	20 (16)
初 期 消 火 な し	4					3	7
火 災 件 数	17					10	27

原因別出火件数及び損害額

(令和6年)

月別 区別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	損害額 (千円)
たばこ		1		1					1				3	30
こんろ		2					1						3	42
焼却炉												1	1	3
ストーブ		2	1										3	2,788
ボイラー										1			1	18
電気機器								1			1		2	58
電気装置							1						1	25
火入れ								1					1	0
放火			2	1				2					5	1,119
放火の疑い								1					1	333
その他			1		1		1	1		1		1	6	726
合計		5	4	2	1		3	6	1	2	1	2	27	5,142

救 急

救急体制

当市の救急業務は、昭和３８年４月２６日高砂ロータリークラブから救急車の寄贈を受けて開始して以来、年々高まる救急需要に適宜対応し、救急体制の整備を図ってきました。また、平成２２年１０月から高砂西部地域の救急体制を強化するため、北浜救急ステーションを開設（平日昼間）し、現在では専任救急隊１隊、兼任救急隊２隊、北浜ステーション隊１隊の４隊体制となっています。

平成３年の救急救命士法施行以来、平成１５年に包括的指示下での除細動、平成１６年に気管挿管、また、平成１８年には薬剤投与、平成２６年４月から心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与について救急救命士の処置範囲が拡大されました。

これらに対応すべく医療機関との更なる連携、高度救命処置用資機材の整備、また救急隊員の再教育(病院実習等)等救急業務の高度化を図ることにより、市民の救急に対するニーズに応えています。

(令和7年4月1日現在)

救 急 車 数	4台
救 急 隊 員 数	専任11人 ・ 兼任20人
救 急 救 命 士	37人
気 管 挿 管 認 定 救 急 救 命 士	32人
薬 剤 投 与 認 定 救 急 救 命 士	32人
拡 大 二 行 為 認 定 救 命 士	28人

救急医療体制

夜間の救急医療体制については、昭和５５年４月に東播磨２市２町（加古川市・高砂市・稲美町及び播磨町）並びに高砂市医師会と加古川市加古郡医師会で財団法人東播磨臨海救急医療協議会を設立し、内科及び小児科の診療体制で年間を通じて、内科及び小児科を午後９時から午前６時まで、「東はりま夜間休日応急診療センター」において、初期救急医療に対応するとともに外科及び２次救急については、東播第２次救急病院協議会に加盟している１０病院の輪番制で対応しています。また、県立加古川病院が、平成２１年１１月から県立加古川医療センター・救命救急センターとして、地域の３次救急医療を担っています。

小児２次救急については、平成１２年の４月から東播磨３市２町（明石市・加古川市・高砂市・稲美町及び播磨町）の指定病院で対応しています。

また、休日及び年末年始については、高砂市医師会が午前９時から午後６時までの間、内科及び外科の診療を会員の在宅当番制で実施しています。

救急の概要

令和6年の救急出動件数は、4,827件で前年に比べ67件減少し、傷病者搬送人員は4,200人で55人減少しており、出動件数及び搬送人員ともに減少となっています。

これは1日平均13.2件出動したこととなり、市民20.6人に1人を救急車で医療機関へ搬送したことになります。

事故種別では、急病が3,156件(61件減)と最も多く全体の65.4%を占め、次いで一般負傷が694件(54件減)14.4%、転院搬送が474件(42件増)9.8%となっています。

傷病程度別搬送人員は、中等症が2,186人(173人増)と最も多く全体の52.0%を占め、軽症が1,718人(197人減)40.9%、重症は244人(8人減)5.8%、死亡52人(23人減)1.2%となっています。

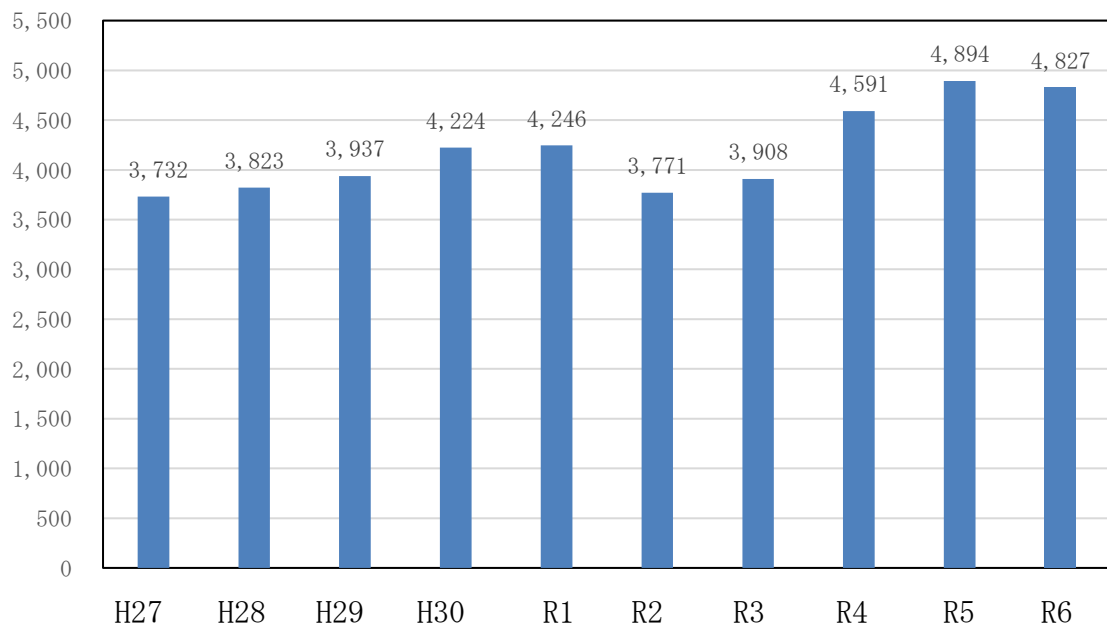
(令和6年)

区 分		救急出動件数	比 率	搬送人員	
合 計		4, 827	100. 0%	4, 200	
救 急 事 故 種 別	火 災	11	0. 23%	1	
	自 然 災 害				
	水 難 事 故	6	0. 12%	2	
	交 通 事 故	305	6. 32%	261	
	労 働 災 害	42	0. 87%	40	
	運 動 競 技	41	0. 85%	40	
	一 般 負 傷	694	14. 38%	616	
	加 害	17	0. 35%	14	
	自 損 行 為	41	0. 85%	25	
	急 病	3, 156	65. 38%	2, 730	
	そ の 他	転 院 搬 送	474	9. 82%	471
		医 師 搬 送			
		資機材等輸送			
そ の 他		40	0. 83%		

救急出動状況

区分 年別	合 計	火 災	自 然 災 害	水 難 事 故	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	搬 送 人 員	人 口
平成27年	3,732	10	2	6	396	26	22	538	27	18	2,375	312	3,462	93,357
平成28年	3,823	12	1	4	394	29	38	532	27	25	2,434	327	3,510	92,770
平成29年	3,937	11		1	389	37	25	565	20	33	2,542	314	3,602	92,020
平成30年	4,224	8		2	384	44	24	535	14	31	2,838	344	3,867	91,159
令和元年	4,246	7		5	379	49	22	602	12	39	2,739	392	3,847	90,462
令和2年	3,771	9	1	4	299	47	16	564	17	40	2,436	338	3,392	89,762
令和3年	3,908	17		4	270	36	27	585	9	33	2,528	399	3,447	88,968
令和4年	4,591	13		3	276	37	24	690	11	27	3,075	435	3,903	88,395
令和5年	4,894	10	1	5	293	35	34	748	15	39	3,217	497	4,255	87,360
令和6年	4,827	11		6	305	42	41	694	17	41	3,156	514	4,200	86,310

件



救急出動状況前年との比較

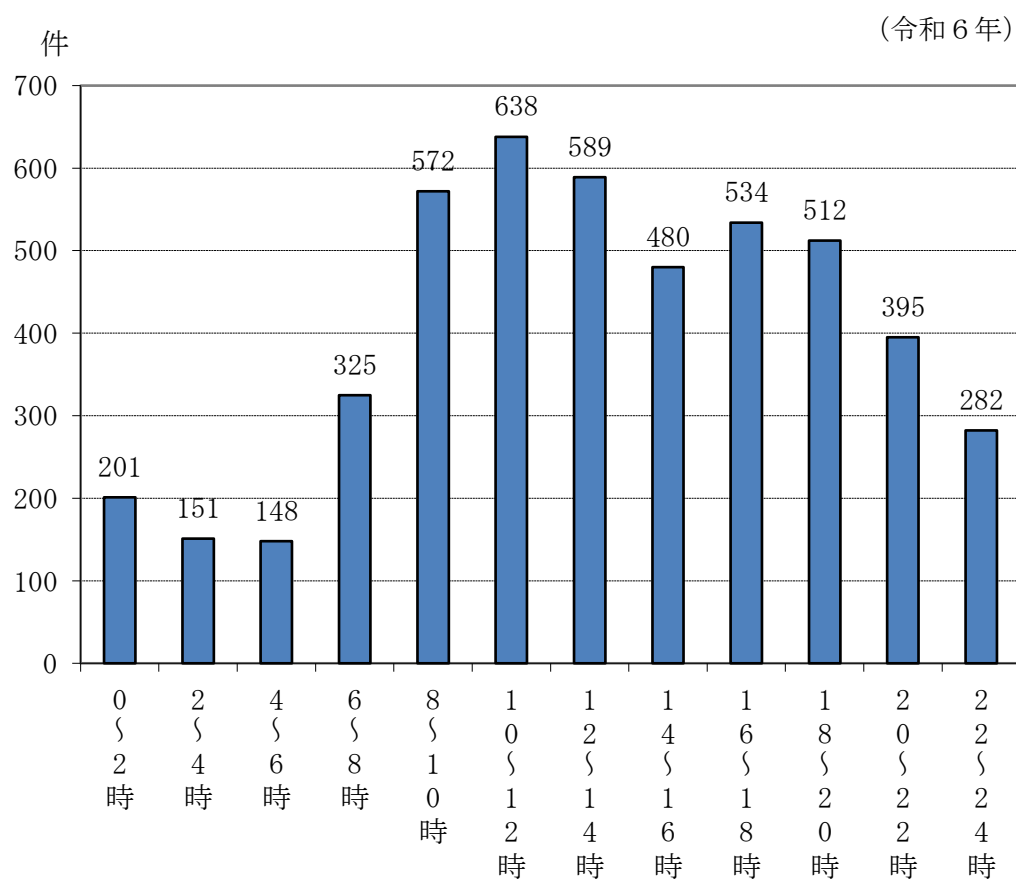
区 分 \ 年 別		令和 6 年	令和 5 年	増 減	
合 計		4, 827	4, 894	△ 67	
救 急 事 故 種 別	火 災		11	10	1
	自 然 災 害			1	△ 1
	水 難 事 故		6	5	1
	交 通 事 故		305	293	12
	労 働 災 害		42	35	7
	運 動 競 技		41	34	7
	一 般 負 傷		694	748	△ 54
	加 害		17	15	2
	自 損 行 為		41	39	2
	急 病		3, 156	3, 217	△ 61
	そ の 他	転 院 搬 送	474	432	42
		医 師 搬 送			
		資 機 材 等 輸 送			
		そ の 他	40	65	△ 25
不 搬 送 件 数		646	652	△ 6	
搬 送 人 員		4, 200	4, 255	△ 55	
傷 病 程 度	死 亡		52	75	△ 23
	重 症		244	252	△ 8
	中 等 症		2, 186	2, 013	173
	軽 症		1, 718	1, 915	△ 197
	そ の 他				

月別救急出動件数

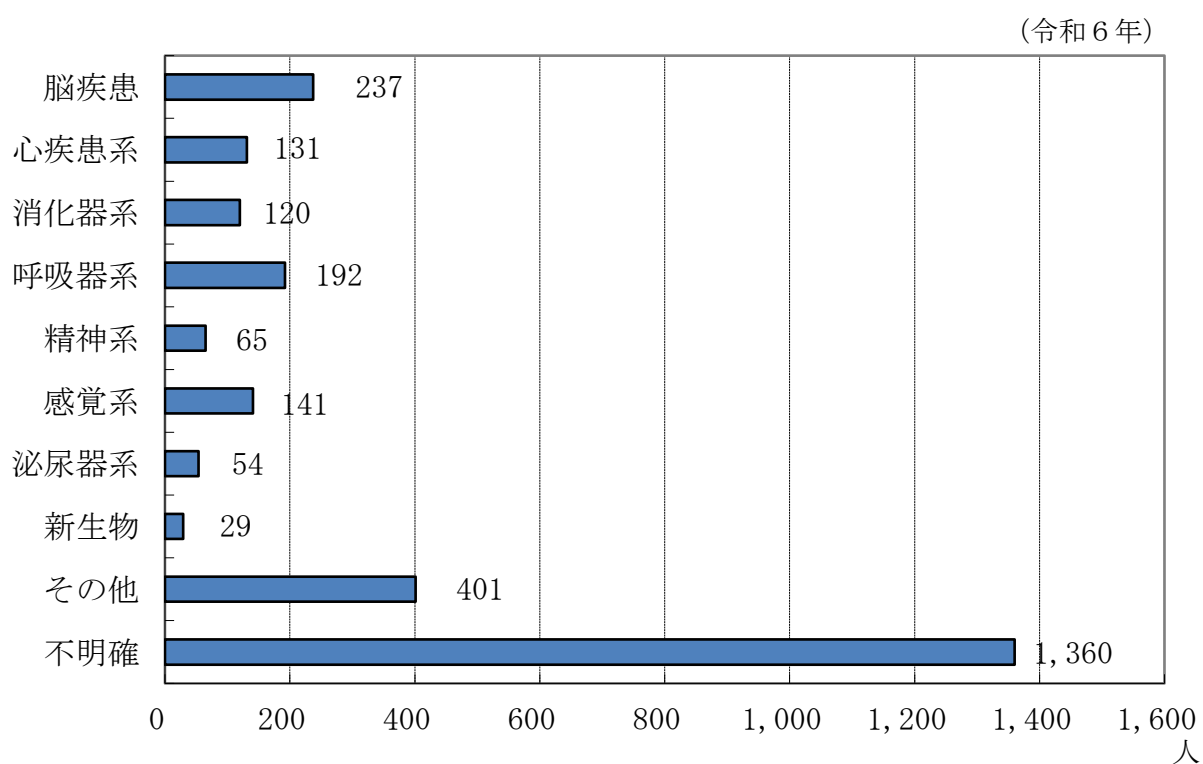
(令和6年)

月 別 区 分			合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
合 計			4,827	446	350	364	337	367	403	479	462	414	324	379	502	
救 急 事 故 種 別	火 災		11		3	1	1	1		1	3				1	
	自 然 災 害															
	水 難 事 故		6					1	2				1	2		
	交 通 事 故		305	25	19	28	21	24	28	29	20	35	17	28	31	
	労 働 災 害		42	1	1	4	2	5	3	2	5	6	5	3	5	
	運 動 競 技		41	1	1	2	5	2	4	5	7	4	3	5	2	
	一 般 負 傷		694	58	53	69	56	59	57	55	47	55	55	55	75	
	加 害		17		1	3	6	2	1	1	1	1	1			
	自 損 行 為		41	3	3	2	8	5	2	2	3	3	2	6	2	
	急 病		3,156	310	227	227	195	226	262	336	327	266	207	237	336	
	そ の 他	転 院 搬 送		474	45	40	26	39	40	38	43	45	40	33	39	46
		医 師 搬 送														
		資 機 材 等 輸 送														
		そ の 他		40	3	2	2	4	2	6	5	4	4		4	4
不 搬 送 件 数			646	63	49	43	46	48	56	84	64	50	34	54	55	
搬 送 人 員			4,200	387	301	324	292	319	349	397	399	366	291	325	450	
傷 病 程 度	死 亡		52	6	5	6	7	3	2	3	6	5	1	3	5	
	重 症		244	21	18	21	17	20	19	31	21	16	20	19	21	
	中 等 症		2,186	207	151	161	153	153	176	212	184	209	159	177	244	
	軽 症		1,718	153	127	136	115	143	152	151	188	136	111	126	180	
	そ の 他															

時間別救急出動件数



急病にかかる疾病分類別搬送人員



現場到着所要時間別出動件数

現場到着所要時間別出動状況は、5分以上10分未満が3,643件と最も多く全体の75.5%を占めている。なお、現場到着平均所要時間は7分04秒である。

(令和6年)

時間 区分	合 計	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上	現場到着 平均所要時 間
合 計	4,827	48	678	3,643	451	7	7分04秒
急 病	3,156	23	378	2,456	299		7分07秒
交通事故	305	4	45	210	40	6	7分34秒
一般負傷	694	5	96	531	62		7分06秒
上記以外	672	16	159	446	50	1	6分29秒

病院収容所要時間別搬送人員状況

病院収容所要時間別の搬送人員は、30分以上60分未満が2,582件と最も多く全体の61.5%を占めている。

(令和6年)

時間 区分	合 計	20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分以上	病院到着 平均所要時 間
合 計	4,200	111	1,292	2,582	209	6	36分01秒
急 病	2,730	60	777	1,752	139	2	36分29秒
交通事故	261	18	79	147	17		36分18秒
一般負傷	616	17	161	404	33	1	36分58秒
上記以外	593	16	275	279	20	3	32分41秒

応急処置等の実施状況

(令和6年)

事故種別 区 分	急 病	交通事故	一般負傷	左記以外	合 計
応 急 処 置 対 象 搬 送 人 員	2,730	259	616	591	4,196
止 血	6	9	43	5	63
固 定	3	56	32	13	104
人 工 呼 吸	6			2	8
心 肺 蘇 生	73	1	3	6	83
酸 素 吸 入	519	20	22	126	687
気 道 確 保	108	1	4	7	120
うち経鼻エアウェイ ※1	4			1	5
うち喉頭鏡、鉗子 ※2	2		2		4
うちラリングアルマスク等 ※3	47			2	49
うち気管挿管 ※4			2		2
保 温	16	10	5	4	35
被 覆	14	38	116	22	190
在 宅 療 法 継 続	22		2		24
除 細 動	5				5
静脈路確保（輸液）※5	34		1	2	37
薬 剤 投 与	11				11
血 糖 測 定	9				9
ブ ド ウ 糖 投 与	9				9
血 圧 測 定	2,548	252	581	580	3,961
心 音 ・ 呼 吸 音 聴 取	1,197	77	136	167	1,577
血 中 酸 素 飽 和 度 測 定	2,659	257	608	584	4,108
心 電 図	1,391	50	90	219	1,750
合 計	8,630	771	1,643	1,737	12,781

※1 経鼻エアウェイを使用して気道確保を行った数を内数として記載

※2 喉頭鏡・鉗子等により異物除去を行った数を内数として記載

※3 救急救命士がラリングアルマスク等を使用して気道確保を行った数を内数として記載

※4 救急救命士が気管挿管処置を実施して気道確保を行った数を内数として記載

※5 心肺機能停止時、心肺機能停止前及びブドウ糖投与のための静脈路確保の成功件数

救急講習会実施状況

区 分	令和4年		令和5年		令和6年	
	回数	人 数	回数	人 数	回数	人 数
一 般 救 急 講 習 会	28	531	61	1,366	55	1,201
普 通 救 命 講 習 会	8	76	15	296	23	321
上 級 救 命 講 習 会	1	8	1	9	1	8
応 急 手 当 普 及 員 講 習 I			1	1	1	2
ジュニア救命士認定講習	6	502	8	621	5	410
計	43	1,117	86	2,293	85	1,942

救 助

救助体制

火災、交通事故等の救助事案に対応する救助体制について、当市では長い間、事故種別に応じて救急隊と消防隊が協力して、わずかな救助器具を活用して対応していました。

しかし、昭和61年には消防法の一部改正で救助隊の設置が義務づけられたこと、さらに管内で発生する救助事案も年々複雑化し、従来の対応では困難を生じてきたため、専門的な救助技術を有する救助隊の編成・配備が急務となってきました。

そこで平成元年に近隣各市等の協力を得て救助隊員の養成を開始し、平成2年8月に高砂市消防救助隊を隊長以下15名で発足させ、さらに平成3年には、省令第2条の基準に定められた救助器具を積載した救助工作車を購入・配備して本格的な活動を開始しました。

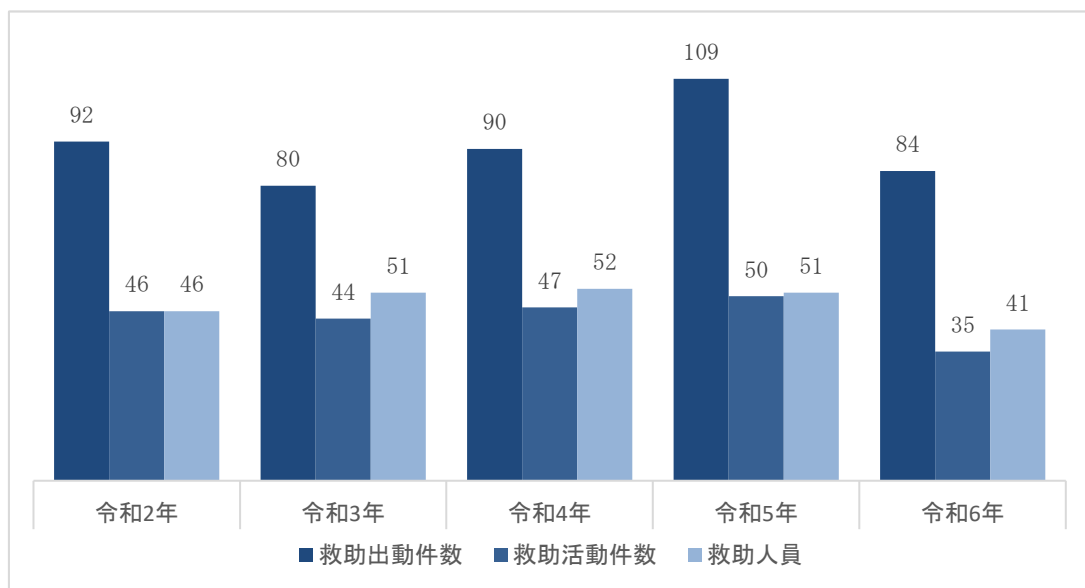
さらに、平成19年には救助工作車を更新し、大規模災害において迅速・的確な人命救助活動を可能とするため必要な資機材を整備しています。

救助の概要

令和6年中の救助出動件数は84件で、前年に比べ25件減少し、救助活動件数は35件で前年に比べ15件減少しています。救助人員は、41人で前年に比べ10人減少しています。

出動件数等の推移

年 別 区 分	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
救 助 出 動 件 数	92	80	90	109	84
救 助 活 動 件 数	46	44	47	50	35
救 助 人 員	46	51	52	51	41



救助出動状況前年との比較

年 別 区 分		令和6年	令和5年	増 減
出 動 件 数		84	109	△ 25
活 動 件 数		35	50	△ 15
救 助 人 員		41	51	△ 10
事 故 種 別	火 災	1		1
	交 通 事 故	24	20	4
	水 難 事 故	7	4	3
	自 然 災 害			
	機 械 事 故	2		2
	建物等による事故	12	33	△ 21
	ガス・酸欠事故	4	5	△ 1
	破 裂 事 故			
	そ の 他 の 事 故	34	47	△ 13
傷 病 程 度	死 亡	8	19	△ 11
	重 症	4	5	△ 1
	中 等 症	17	14	3
	軽 症	4	8	△ 4
	そ の 他	8	5	3

月別救助出動件数

(令和6年)

種 別 月 別		総 数	火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	自 然 災 害	機 械 事 故	建 物 等 に よ る 故	ガ ス ・ 酸 欠 事 故	破 裂 事 故	そ の 他 の 故
1 月		8		2				2			4
2 月		8	1	4				2			1
3 月		3		1					1		1
4 月		6		2				1	2		1
5 月		9		4	1		1				3
6 月		8		2	2						4
7 月		11		5	1		1	1			3
8 月		4		1							3
9 月		7						1	1		5
10 月		5		2	1			1			1
11 月		9		1	2			3			3
12 月		6						1			5
合 計		84	1	24	7		2	12	4		34

救助種別及び傷病程度

(令和6年)

種 別 区 分		総 数	火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	自 然 災 害	機 械 事 故	建 事 物 等 に よ る 故	ガ ス・ 酸 欠 事 故	破 裂 事 故	そ 事 の 他 の 故
出 動 件 数		84	1	24	7		2	12	4		34
活 動 件 数		35	1	9	4		1	11	3		6
救 助 人 員		41	1	11	3		1	11	5		9
傷 病 程 度	死 亡	8	1	1	2			2	2		
	重 症	4		2				1			1
	中 等 症	17		8	1			6			2
	軽 症	4						2			2
	そ の 他	8					1		3		4
	合 計	41	1	11	3		1	11	5		9

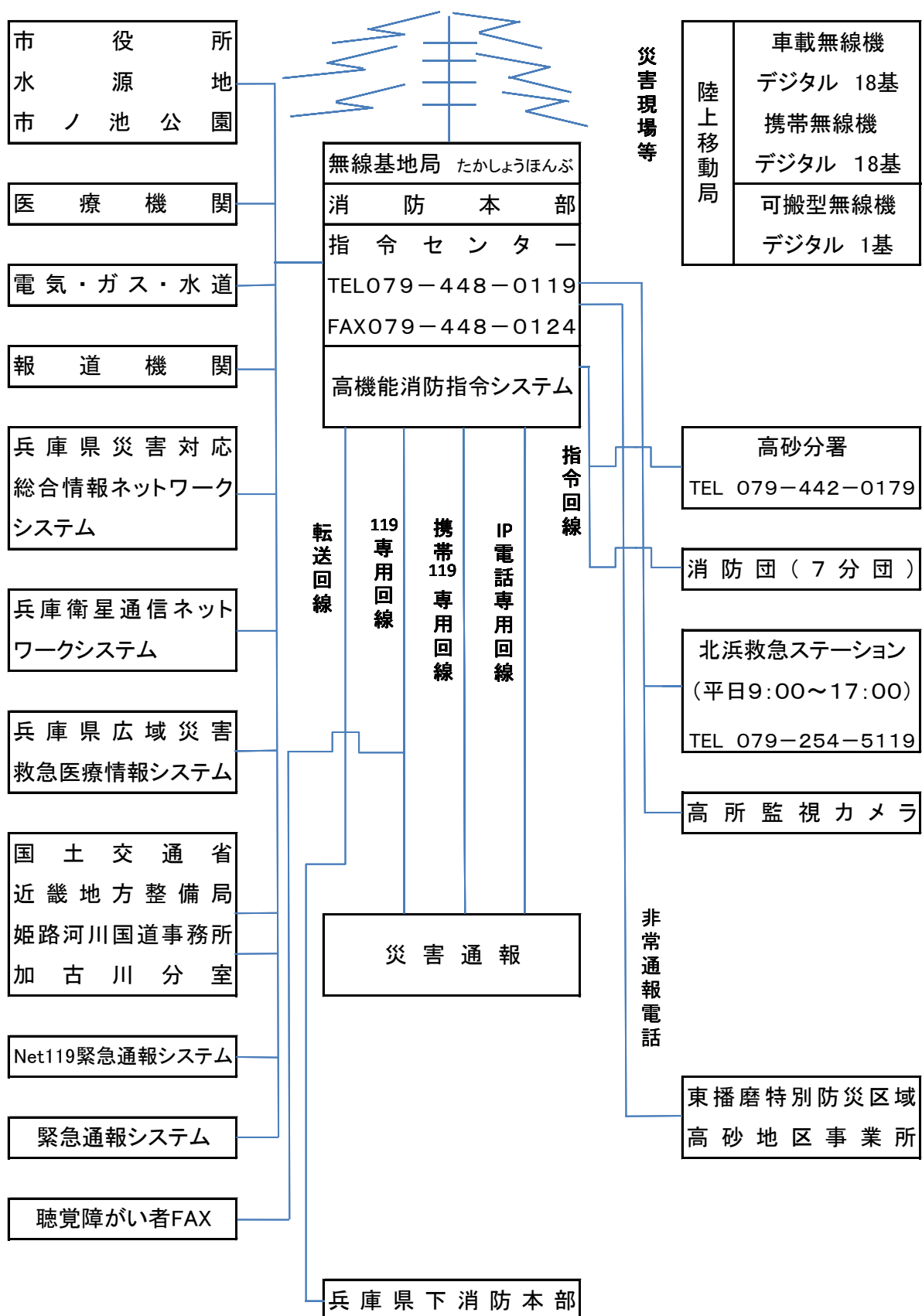
発生場所別出動件数

(令和6年)

種 別 区 分			総 数	火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	自 然 災 害	機 械 事 故	建 事 物 等 に よ る 故	ガ ス・ 酸 欠 事 故	破 裂 事 故	そ 事 の 他 の 故
屋 内	住 居		39	1					12	1		25
	そ の 他 の 屋 内		3					2		1		
屋 外	道 路		22		21							1
	水 面	内 水 面	2		1	1						
		外 水 面	6			5						1
	山 岳		5									5
	そ の 他 の 屋 外		7		2	1				2		2
そ の 他												
合 計			84	1	24	7		2	12	4		34

管 制

消防通信系統図



指令センター

近年の都市構造の変化・情報の高度化・高齢化社会及び広域防災に対する対応力の強化などが問われているなか、市民の安全で快適な暮らしを守ることを基本目標に、先端技術を駆使した高機能消防指令システムの導入を図り、平成26年3月29日から運用開始しています。

指令電送装置・消防職員／消防団指令システム

地震、火災等は迅速な対応が求められるため、指令台と連動しEメールにより消防職員、消防団員の携帯電話に災害情報を送るもので、平成26年3月29日から運用を開始しています。

兵庫県災害対応総合情報ネットワークシステム（フェニックス防災システム）

阪神・淡路大震災の教訓をふまえ、光ファイバーケーブルにより、県・市町・消防本部及び関係機関に設置された防災ワークステーションと直結しています。

県下市町に設置されている地震計等からの情報収集とその解析により、迅速・的確な応急対応が可能で、平成8年9月25日から県下一斉に運用を開始しています。

兵庫衛星通信ネットワークシステム（衛星アンテナ・衛星端局・防災電話・防災FAX）

このシステムは、地上の災害による影響を受けないので停電やケーブルの断線等による通信途絶の心配がなく、防災情報等の収集及び伝達が的確にでき、災害に対して迅速な対応ができます。

高砂市も災害の未然防止、災害の軽減を図るため平成5年4月から運用を開始しています。

兵庫県広域災害・救急医療情報システム

阪神・淡路大震災の教訓をふまえ、大規模災害に対応できるよう、災害時における医療の情報及び平時における救急医療の情報提供を行います。また平成21年4月から新システムの更新に伴い、患者の重症度（一定の基準）に応じて複数の医療機関に一斉に搬送要請を行い、医療機関から応需可否情報を受けることによって、早期に受入医療機関を確保するものです。

Net 119 緊急通報システム

聴覚や言語機能に障がいがあり、音声による緊急通報が困難な方が円滑に消防への通報を行えるようにするシステムです。携帯電話やスマートフォンのWeb（インターネット）機能を通して、簡単な操作で119番通報ができます。令和2年12月から運用を開始しています。

緊急通報システム

一人暮らしの高齢者が急病等に見舞われた際、「119番」のダイヤルを回すことなくワンタッチ操作により緊急通報受信センターに緊急事態を通報するできるシステムです。平成3年11月1日から運用を開始しています。

聴覚障がい者FAX

聴覚や言語機能に障がいがあり、音声による緊急通報が困難な方が利用できるように、高砂市消防本部指令センターに緊急通報受信専用ファクシミリを設置し、平成11年7月1日から運用を開始しています。

非常通報電話

石油コンビナート等災害防止法に基づく東播磨特別防災区域高砂地区協議会の会員事業所6社と消防本部とを直結した通報専用回線で、災害発生時にはワンタッチで連絡することができるもので、平成5年9月1日から運用を開始しています。

緊急情報ネットワークシステム（Em-Net）

このシステムは、行政用専用回線（LGWAN）で都道府県・市区町村に対して、端末PCへ強制的にメッセージが着信、アラームが鳴り、警報や避難措置などの国民保護法に基づく法定通知文書を配信するためのもので、平成21年8月31日から運用を開始しています。

通信・気象

119番受付件数

(令和6年)

区分 月		災 害				試 験	問 い 合 わ せ	い た ず ら	間 違 い	そ の 他	計
		火 災	救 急	救 助	そ の 他						
1	専 用	1	188	1	1	9	14		3	28	245
	携 帯		221	3	3		76		11	47	361
	小 計	1	409	4	4	9	90		14	75	606
2	専 用	4	156	2	1	16	18		3	33	233
	携 帯	4	173	3	5	15	39		11	42	292
	小 計	8	329	5	6	31	57		14	75	525
3	専 用		161		2	14	13		1	29	220
	携 帯	4	178	1	1	1	39		9	28	261
	小 計	4	339	1	3	15	52		10	57	481
4	専 用		136			17	13		2	19	187
	携 帯	5	171	4	1	1	45		20	40	287
	小 計	5	307	4	1	18	58		22	59	474
5	専 用	1	151	1	1	20	14		7	22	217
	携 帯		175	4	2		49		13	36	279
	小 計	1	326	5	3	20	63		20	58	496
6	専 用		163	1		76	18		12	45	315
	携 帯	1	209	4	1		47		13	34	309
	小 計	1	372	5	1	76	65		25	79	624
7	専 用	1	206		2	14	18		17	44	302
	携 帯		234	8	3	1	64		14	48	372
	小 計	1	440	8	5	15	82		31	92	674
8	専 用		177			9	21		5	17	229
	携 帯	11	251	3	3		78		9	47	402
	小 計	11	428	3	3	9	99		14	64	631
9	専 用		169			9	8		2	26	214
	携 帯	1	216	2	2	1	62		11	43	338
	小 計	1	385	2	2	10	70		13	69	552
10	専 用	1	127	1		18	14		5	38	204
	携 帯	1	170	3	6	1	41		15	68	305
	小 計	2	297	4	6	19	55		20	106	509
11	専 用	1	149			13	25		2	56	246
	携 帯	2	196	4	2	11	43		8	58	324
	小 計	3	345	4	2	24	68		10	114	570
12	専 用	1	204	1	1	5	15		7	24	258
	携 帯	3	263	5	2		64		17	48	402
	小 計	4	467	6	3	5	79		24	72	660
合計	専 用	10	1,987	7	8	220	191		66	381	2,870
	携 帯	32	2,457	44	31	31	647		151	539	3,932
	小 計	42	4,444	51	39	251	838		217	920	6,802

※ 専用＝I P電話を含む、携帯＝転送を含む

気象状況

(令和6年)

	風向	風速 (m/s)		気 温 (℃)			湿 度 (%)			雨 量 (mm)		
月 別	最多風向 頻度 (%)	最大瞬間 風速	平均 風速	最高 気温	最低 気温	平均 気温	最高 湿度	最低 湿度	平均 湿度	降(日 雨最大 量)	積 算降 雨量	降 雨日 数
1	20.0 西北西	19.4 西北西	2.3	14.1	-2.3	5.8	97.4	30.2	68.4	8.5	16.0	5
2	20.6 北東	16.9 北北東	2.2	17.8	-0.7	7.2	99.9	30.2	71.0	17.5	69.0	13
3	21.3 北東	22.9 北西	2.6	21.4	-2.1	8.6	98.4	25.3	67.2	26.0	116.5	11
4	29.1 北東	15.4 北西	2.1	25.0	4.9	16.7	99.9	19.3	70.7	39.0	140.0	11
5	19.8 北東	20.7 西	2.6	27.9	8.2	18.5	99.9	17.8	70.8	94.5	172.5	11
6	22.0 北東	14.3 南	2.0	31.3	13.5	23.0	99.9	42.0	78.4	48.5	187.5	15
7	19.7 西南西	13.2 西南西	2.1	34.7	22.4	28.5	99.9	51.7	81.9	26.5	102.5	9
8	26.6 北東	15.7 北西	2.3	36.6	23.7	29.7	99.9	43.1	76.0	61.5	180.5	6
9	29.8 北東	14.6 南南西	2.4	35.2	20.2	28.2	98.2	41.3	74.7	1.5	2.5	2
10	35.0 北東	14.9 北東	2.3	29.6	11.9	21.2	99.9	40.2	75.7	49.0	133.0	11
11	26.2 北東	20.1 北東	2.2	23.9	3.4	13.7	99.9	31.9	71.0	43.5	112.0	5
12	31.7 西北西	18.0 西	2.5	17.6	-0.8	6.9	96.0	30.0	65.6	1.5	1.5	1
年間		22.9 北西	2.3	36.6	-2.3	17.3	99.9	17.8	72.6	94.5	1233.0	100

※ 高砂市消防本部（高砂市伊保4丁目）観測データ

施設・装備

消防水利の現況

(令和7年4月1日現在)

地区 \ 水利	防火水槽	井戸	プール	消火栓	合計
高砂	14		5	221	240
荒井	22		2	280	304
伊保	15		2	433	450
中筋	7		2	135	144
曾根	10		3	255	268
米田	13	2	3	345	363
阿弥陀	24		2	280	306
北浜	9		1	138	148
合計	114	2	20	2,087	2,223

消防車両一覧

(令和7年4月1日現在)

配備先	配備車両	ポンプ性能	排気量(CC)	登録年月日
消防本部	査察兼広報車(軽)		650	H29. 5. 26
	連絡車(軽四)		650	H28. 10. 18
	支援車		2,730	H17. 1. 11
	物資搬送車		1,780	H15. 2. 25
	物資搬送車(ダンプ)		4,000	H29. 1. 12
	人員搬送車		2,690	R6. 2. 7
消防署	普通消防ポンプ自動車(CD-I型)	A-2	4,000	H22. 12. 15
	梯子付消防自動車(30m級)		8,860	R6. 2. 20
	水槽付普通消防ポンプ自動車(I-A型)	A-2	6,400	H17. 3. 7
	大型化学消防ポンプ自動車(大I型)	A-1	10,520	H13. 3. 19
	泡原液搬送車		7,960	H15. 3. 17
	救助工作車(II型)		6,400	H19. 1. 26
	救急車(高規格車)		2,690	R3. 1. 12
	救急車(高規格車)		2,690	H25. 1. 29
	救急車(高規格車)		2,690	H22. 6. 18
	指揮車		2,690	H23. 1. 25
	資機材搬送車		7,160	H16. 3. 11
高砂分署	普通消防ポンプ自動車(CD-I型)	A-2	4,890	H11. 10. 28
	災害対応特殊化学消防ポンプ自動車(I型)	A-2	5,120	H30. 3. 15
	救急車(高規格車)		2,690	H28. 12. 19

主な消防機械器具の状況

(令和7年4月1日現在)

資 機 材 名			数 量	資 機 材 名			数 量
放水器具	消防用ホース（75mm）		12	救助器具	熱画像直視装置		3
	消防用ホース（65mm）		133		水中通話装置一式		1
	消防用ホース（50mm）		185		潜水器具一式		8
	消防用ホース（40mm）		29		救命ボート		6
	小型動力消防ポンプ（B-2級）		3		救助用三脚		2
	小型動力消防ポンプ（C-1級）		2		油圧ジャッキ		13
	放水砲		2		簡易画像探査装置		1
	ラインプロポーションナー		2		救助用支柱器具		1
	高発泡器		4	測定器具	可燃性ガス測定器		3
	組立式簡易水槽		6		放射線測定器		5
	ジェットシューター		13		ポケット線量計		21
救助器具（救急・工作・積載分）	かぎ付はしご		1	隊員保護具	空気呼吸器		29
	三連はしご		1		耐電衣		6
	救命索発射銃		1		化学防護服A		3
	サバイバースリング		1		化学防護服B・C		65
	救助用縛帯		1		耐熱防火衣		5
	エンジンカッター		1		放射能防護服		3
	チェーンソー		1	救急器具	高圧蒸気滅菌器		2
	バスケット型担架		1		オゾン水生成装置		2
	可搬式ウインチ		1		オゾンガス生成装置		2
	油圧式カッター		2	照明器具	携帯用発動発電機		13
	油圧式スプレッダー		1		コードリール		10
	空気式マット型ジャッキ		1		三脚付投光器		7
	ハンマードリル		1	その他	エアータント		2
	送排風機		1		インパルス銃		2
	携帯用破壊器具		1		高圧空気圧縮機		1

水 防

事前調査

6月10日 市内要注意箇所調査

活動

(令和6年)

月 日	内 容	消防活動状況
5月28日	大雨警報発令に伴う水防活動	要注意箇所及び河川等の調査 土のう配布
8月24日～30日	台風10号に伴う水防活動	要注意箇所調査 土のう配布